

平成28年度 浄化槽設備士 実地試験解答試案

【問題 1】

(1)

	機能障害の事例
①	汚物が設備内に逆流する。
②	十分な浄化能力が得られなくなる。
③	消毒剤が逆流し、消毒効果が得られなくなる。
④	放流機能が十分に働かなくなる。

(解) 上記の事例のうちから 3 つ記入すること。

(2)

	山留め工法を必要とする事例
①	堀削中の地盤の側面を保護するため。
②	周囲の地盤の崩壊を防止するため。
③	土砂の流出を防止するため。
④	湧水による障害をできるだけ少なくするため。

(解) 上記の事例のうちから 3 つ記入すること。

本解答は、九州建設専門学院の「解答試案」です。解答内容は予告なしに変更になることがあります。ご了承下さい。



【問題 2】

(1)

	工事敷地内の調査項目例
①	浄化槽を設置するスペースが確保できるか。
②	流入管渠、放流管渠の勾配や放流先が確保できるか。
③	配管路、槽の設置場所の地上、地下に障害物がないか。
④	土質、地下水位、湧水の状況はどうか。
⑤	ピット工事、擁壁工事等の特殊な工事が必要ないか。

(解) 上記の事例のうちから 3 つ記入すること。

(2)

	工事敷地周辺の状況に関する調査項目例
①	工事用資材等の搬入、搬出経路の状況はどうか。
②	浄化槽の施工時や、設置後の周辺の環境に及ぼす影響はどうか。
③	工事用電力や、工事用水の確保はできるか。
④	作業時の周辺の安全管理は問題なく実施できるか。

(解) 上記の事例のうちから 3 つ記入すること。

【問題 3】

経験記述のため省略

〈参考〉

(9) (工程管理)

工程管理に関しては、どのように工期を守ったかなどや、工程を短縮したこと、効率良く工事を進めるための工夫したことなどを記述すれば良い。

(品質管理)

品質管理に関しては、設計図書通りの品質にするために行った措置・対策等を記述すれば良い。

以上